



Lycée International

日本セクション

リセ・アンテルナショナルの特色

リセ・アンテルナショナル・サン・ジェルマン・アン・レイは、フランスの名門公立校の一つで（2005年8月までは国立、その後はイルドフランス地方自治体とイヴリンヌ県の管理）、外国から来た子供たちに母国の文化と教育を大切に保持させながら、フランスの教育を行っています。バイリンガル・バイカルチャーの教育の場として、14カ国の子供たちが共に学ぶ環境はフランス唯一のものであります。

リセ・アンテルナショナル・サン・ジェルマン・アン・レイはパリの西約20キロ、ルイ14世が誕生したお城のある森に囲まれた街、サンジェルマン・アン・レイにあります。1952年にNATO将校の子弟のために設立されたのが発端で、国際色豊かな校風は設立から半世紀以上過ぎた現在まで続いています。

イギリス・ドイツ・ポーランド・オランダ・イタリア・スペイン・ポルトガル・ノルウェー・デンマーク・スウェーデン・アメリカ・ロシア・中国、そして日本の14カ国のセクションの生徒がフランス語で数学や理科の一般科目を習っています。そして中等部までは週6時間、高等部では週8時間、それぞれの国のセクションでその国の言語・文学と社会の学習をします。

また、「各国の文化を大切にしていこう」という観点から、さまざまな行事が催され、日本文化だけでなく他国の文化にも数多く触れることができます。

フランス語集中クラス (FSクラス)

海外から転校してきたばかりのフランス語の習熟度が低い生徒のために初等部2年から高等部1年まで、フランス語集中クラス (Français Spécial = FSクラス)が設けられています。このクラスではフランス語導入教育を専門とする教師が特別なカリキュラムを組み、教育を行っています。ほとんどの生徒が1年または2年で普通クラスに編入するレベルに達しています。

エクステルネ制度

幼稚園部と初等部には「エクステルネ」制度があり、フランス国民教育省教育省の教育プログラムを実施している他のフランスの学校に通いながらセクションの授業だけをリセ・アンテルナショナルに受けに来ることができます。日本セクションの幼稚園部の生徒は、全員エクステルネ生となります。

OIB (Option Internationale du Baccalauréat)

フランスの高校3年 (Terminale) の学年末には、バカロレアと呼ばれる国家試験が行われ、これに合格すると大学入学資格が得られます。リセ・アンテルナシ

ナルの生徒は全員、国際オプションのバカロレア OIB (Option Internationale du Baccalauréat) を受験します。

OIB では、

- 1、通常バカロレアの第一外国語の代わりに、当該国（日本セクションは日本語）の言語・文学の筆記・口頭試験を受験します。
- 2、通常バカロレアの地理歴史科の問題の代わりに、当該国（日本セクションは日本）の地理歴史の内容を加味した問題の筆記・口頭試験を受験します。
- 3、上記2科目の試験問題作成と採点に当該国の教育省（日本セクションでは文部科学省）が参加・協力しています。

他のセクション同様に、日本セクションも OIB を実施するに当たり、2002年5月にフランス国民教育省と日本の文部科学省の間で協定が調印されました。その後2003年6月より日本セクションの生徒に対し、この OIB が実施されています。OIB の合格証書は、言わば高度な日仏バイリンガル・バイカルチャーであることの証明書です。

バイリンガル教育を受けるということは、学習する範囲、量全てにおいて他校とは比べものにならないくらい多いのにもかかわらず、リセ・アンテルナショナル・サン・ジェルマン・アン・レイの生徒は常にバカロレアの成績、また進学状況など、どれも高いレベルを保っています。

アクセス

LYCEE INTERNATIONAL

2bis RUE DU FER A CHEVAL

78104 SAINT-GERMAIN EN LAYE, France

Phone +33 (0)1 39 10 94 75

Fax +33 (0)1 34 51 64 22

- ・パリより電車とバスで
RER A1 号線 St-Germain en Laye 下車
Transdev 社のバス R2 北循環、あるいは南循環に乗り（約 15 分）
Village d'Hennemont 下車
- ・車
パリより有料高速道路 A14 で St-Germain en Laye 方面へ向かい、Chambourcy で降りる。St-Germain en Laye 方面に進み、二つ目の信号を右折、直進。
- ・通学時間帯には近郊の町からバスが運行している。

日本セクション

1993年 設立。
数少ないアジアセクションとして、独自の存在を確立している。

全生徒数 190人（129家族）2018年12月現在
学年 幼稚園年中組から高校3年生まで
教師数 セクション長を含め全8名

2009年4月、文部科学省より日本語補習授業校と認められ、日本政府からの助成を受けている。

日本セクションの運営は在学生保護者により行われており、保護者の中から委員を選出して運営母体を築いている。教材購入や教師報酬は、保護者からの月謝及び国からの助成金により賄われている。

教育目標

母語レベルの日本語能力の習得・維持、同時に文化・社会に関する理解と知識を深めることを教育目標としている。

教育内容

授業は、日本の文部科学省の学習要領をベースに、フランスの教育に合わせたプログラムで行っている。教師は皆日本語母語話者であり、原則として日本の教員免許を取得している。幼稚園から高校まで一貫して日仏バイリンガル教育をこの規模で行っているのは、フランスでは唯一である。

授業構成

幼稚園部、初等部は週6時間の日本語（国語）、
中等部は週4時間の日本語・日本文学（国語）と2時間の日本地理・歴史
高等部は週6時間の日本語・日本文学（国語）と2時間の日本地理・歴史

季節に応じた教育内容・日本的な催し

たこあげ、まめまき、七夕、栗拾いなど四季とりどりの日本的な行事や日本の唱歌などを積極的に授業に取り入れ、楽しみながら授業が行われるような工夫がなされている。

また、毎年開催されるお正月会では、餅つき、カルタとり、合唱発表、書初め、剣道のデモンストレーションなどが行われ、日本セクション恒例の文化行事となっている。カルタとりでは、初等部から百人一首に親しみ、日本の文化に触れるように配慮されている。